



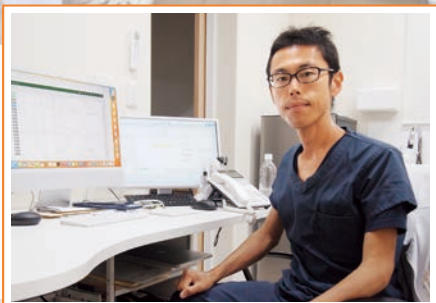
あさのちゃんねる

特 集

「新型コロナが5類感染症へ移行
どう変わる？私たちの生活と医療」

vol.46

2023年 夏号
(年4回発行)



連携登録医のご紹介

かみむらクリニック

院長 上村 吉穂 先生



外出する時は
帽子や日傘で
直射日光を避けて
熱中症対策！

病院の理念

救急から在宅まで、地域の医療を守り支える病院を目指します。

病院の方針

【地域連携】医療・介護・福祉が一体となった切れ目のない医療サービスを提供し、地域医療の充実に努めます。

【救急医療】断らない救急医療を目指します。

【予防医学】健康診断を推進し、病気の予防・早期発見に努めます。

【チーム医療】患者さん中心のチーム医療を実践し、安全・安心で質の高い医療の提供に努めます。

【人材育成】次代の医療を担う信頼される人材の育成に努めます。



特集 新型コロナが5類感染症へ移行

どう変わる？ 私たちの生活と医療

2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症へ移行しました。位置づけの変更に伴い、私たちの生活や医療へのかかり方はどう変わるのでしょうか。変更点のポイントを感染対策室の専門チームが解説します。

【感染対策チームのメンバー】

医師2名、感染管理認定看護師4名、感染管理に関わる適切な研修修了看護師1名、事務1名、感染制御認定薬剤師2名、抗菌化学療法認定薬剤師1名、感染制御認定臨床微生物検査技師1名、臨床検査技師1名、理学療法士1名

濃厚接触者の行動制限や、 医療費負担は？

新型コロナウイルス感染症（以下新型コロナ）が5類感染症へ移行した最大の理由は、発生初期に比べて重症度が低下したことです。しかし、5類へ移行したからといって新型コロナの特性は変わりません。感染力は高いままですし、一部の方は重症化する可能性があります。また、新型コロナに限らず、様々な感染症が年間をとおして流行しているため、基本的な感染対策は続けたほうがいいでしょう。マスクの着用は強要するものではありませんが、医療機関や高齢者施設を訪れる時は着用が望まれますし、風

邪症状がある方は咳エチケットを実施していただければと思います。濃厚接触者の行動制限もなくなりましたが、同居家族が陽性である場合や、陽性の診断を受けていなくても風邪症状がある場合、周りにつさせないように配慮が必要です。例えば、外出を短時間にしたり、昼食を一人でとったり、症状がなくてもマスクをするといった行動が望まれます。ワクチンは任意ですが、重症化リスクなど総合的に判断してご検討ください。医療費は全額公費から原則保険診療になりますが、新型コロナウイルス治療薬は2023年9月末まで公費負担が継続されます。医療費の目安は診療費5,000円前後、10日前後の入院費は高額療養費制度が適用されて平均8～10万円、後期高齢者は平均5～6万円です。

コロナかな？と思ったら どう行動すべきか

5類移行前は、新型コロナに対応しているのは発熱外来など一部の医療機関のみでしたが、移行後は

幅広い医療機関が診察を受け付けています。石川県はこれまでどおり 472 の医療機関を指定して診察を受け付けていますし、その数を拡大していく予定です。もし感染を疑う症状が出たら、事前にお電話をして、かかりつけ医を受診することをおすすめします。かかりつけ医がないなどお困りの場合は、県の新型コロナウイルス健康相談センターに相談することもできます。当院でも突発的なケースを含めて診察を受け入れておりますので、まずはお電話でご相談ください。Web 問診の利用により、ご来院後の診察がスムーズになります。

現在、新型コロナの治療薬は点滴と内服でそれぞれ数種類があり、患者さんの年齢や重症度、基礎疾患の有無などから判断して適したものを選択します。治療薬によっては併用禁止薬があったり、腎機能が低い方や妊婦さんへの投与ができないこともあるため、医師と薬剤師が慎重にチェックをしています。陽性者であっても症状が軽い場合は対処療法として解熱剤や咳止めを使うこともあります。軽い風邪症状のみの場合、病院を受診されない方もいますが、重症化リスクが高いご家族がいるのであれば、その方を守るためにも病院で検査を受け、正しい診断を受けてほしいと思います。検査を受けるタイミングですが、新型コロナは、発熱してすぐに検査してもウイルスが検出されないことが多いため、症状が出てから 12 時間以上経ってから受けることで診断の正確さが増しますし、正しい診断は効果的な治療につながります。ただし、意識が朦朧とするなど症状が重い時はすぐに受診してください。

感染対策室で知見を積み上げ、 地域へノウハウを発信

当院には専門チームで組織した感染対策室があります。新型コロナだけでなく、B 型肝炎やインフルエンザ、麻疹、風疹など様々な感染症から患者さんや医療従事者など病院に関わるすべての人を守る活動をしています。医師、感染管理認定看護師、薬剤師、検査技師、事務員、理学療法士といった多職種が協働し、知恵を出し合って感染対策のシステムを作り、安心して医療を受けられる院内環境を整えています。

(4 頁参照)。感染対策室で確立したノウハウは地域へも発信し、2022 年からは地域のクリニックとも定期的にカンファレンスや実地確認をして感染対策の質を向上させています。コロナ禍の期間、クラスターが発生した医療福祉施設から感染対策について当院へ問い合わせがあり、当対策室がノウハウを提供してサポートいたしました。

コロナ禍を経験し、感染対策への意識とニーズがこれまで以上に高まりました。当院でも感染管理教育の重要性を再認識し、当法人内の医療現場で感染管理ができる看護師を育成する研修課程「JANSSIP (ジャンシップ)」を設けています。また、県が主催する感染管理の専門的看護実践研修事業でも当院が研修を実施していますので、ご興味がある看護師の方はご連絡ください (4 頁参照)。

信頼できる情報源を持ち、 落ち着いて判断しよう

コロナ禍になって約 4 年間、私たちの生活は多くの制限を受けました。新型コロナに関する医療情報があふれ、皆さんは何を信じるべきか、判断に苦労されたのではないのでしょうか。そして 5 類移行後、新型コロナに関する報道が減ってきており、今度は情報を得ることが難しくなっています。当感染対策室では知見と経験を積み重ね、少しでも正しい情報を発信することでも皆さんのお役に立てればと考えています。



感染管理認定看護師とは

感染管理の分野において、熟練した看護技術と知識を有する者として、日本看護協会の認定を受けた看護師をいいます。

疫学、微生物学、感染症学、消毒と滅菌、関係法規などに関する専門的知識と技術を基盤に人・物・時間・お金の観点から病院に関わる全ての人を感染から守るスキルを持っています。

感染対策室について

患者さんをはじめ、訪問者、医療従事者、職員など病院に関わる全ての方を感染から守り、安全で質の高い医療を提供できる環境を整えています。多職種が感染対策チームとして協働し、地域の医療機関とも連携しながら院内の感染防止を推進しています。



活動内容

1 感染対策に関する会議の開催

毎月会議を開催し、感染対策に関する病院の意思決定を促します。感染症の発生状況を把握、問題点の検証を行い、医療安全上影響レベルの高い事例については臨時の委員会を開催して原因究明と検証を行い、対応策を策定します。

2 院内のラウンド（見回り）

感染対策マニュアル及びシステムが遵守されているか、医師・薬剤師・臨床微生物検査技師などの多職種とともに院内を毎週1回定期的に見回り、指導しています。

3 医療関連感染サーベイランス（発生状況の監視）

細菌検査室と連携し、病院内の感染症の発症状況及び病原菌の検出状況をリアルタイムに情報収集し、院内で病原菌が拡散していないことを確認しています。血流感染、尿路感染、手術部位の感染、薬剤耐性菌の検出数など院内における感染症の発生状況を調査し、早期に対応できるよう監視しています。

4 職業感染防止対策

B型肝炎ウイルス感染症やインフルエンザ、麻疹、風疹などに対する職員の抗体価調査、ワクチン接種の管理、針刺し切創（血液が付着した針による外傷）など事故時の支援、それらを防止するための教育活動を行っています。

5 感染対策のシステム作り

主に臨床現場と整合性がとれた感染対策マニュアルを作成・改訂し、周知しています。

6 感染管理に関する教育指導

院内感染防止対策の基本的考え方及び具体的方策について、病院職員へ周知徹底を図るために研修会を年4回以上開催しています。

7 地域との連携

薬剤耐性菌対策やインフルエンザ、感染性胃腸炎の対応など、各医療機関で行っている感染対策を地域の医療機関同士で評価し合うことにより、現状をより客観的に把握し、対策を強化することが求められています。感染対策室では連携する病院やクリニック、高齢者施設との定期的なカンファレンスや実地確認をすることで、地域における感染対策を推進しています。



研修課程「JANSSIP（ジャンシップ）」で感染管理ができる看護師を育成しています

JANSSIPは、医療法人社団浅ノ川が独自に設けた感染管理研修課程です。当法人内の施設で感染対策に関わるチームもしくは感染管理を担当する看護師の支援を受けて医療関連感染の予防と管理ができる看護師を育成しています。

- 研修期間 1年間（1年の延長可）
- 授 業 月1～2回程度（1～3時間）
- 開催場所 浅ノ川総合病院
- 参加費 1人5,000円



また、石川県主催の感染管理における専門的看護実践研修事業の研修も当院で実施しています。ご興味がある看護師の方はお問い合わせください。 ※2023年度の募集は締め切っています。

連絡先

浅ノ川総合病院 感染対策室

TEL:076-252-2101 (代)

今回のテーマ『肩こり』について

「あ～肩こった」 みなさんも一度は言ったことがあるのではないのでしょうか？

『肩こり』は病名ではなく、首から肩周囲にかけての痛みや不快感などを肩こりと呼んでいます。2019年の国民生活基礎調査では、自覚症状の中で『肩こり』が男性1位、女性2位になるほど、多くの人を悩ませているようです。



なぜ『肩こり』は起こるの？

一般的には、全身の筋肉を使わずに同じ筋肉のみを使い続けたり、長時間同じ姿勢を続けることで、筋肉が硬くなったリ血行不良となり“こり”につながります。

肩こり危険度セルフチェック

右の8項目で当てはまるものにチェックをしてみてください。当てはまる数が多いほど肩こりが起こりやすい生活習慣となっているかもしれません。

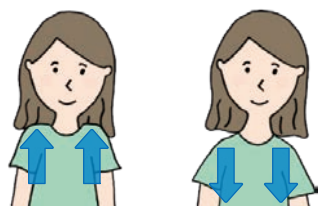
- ☐ 長時間同じ姿勢で過ごすことが多い
- ☐ デスクワークが多く、毎日パソコンを使う
- ☐ 気が付くと猫背になっている
- ☐ 日常的に運動不足だと思う
- ☐ 体に冷えを感じることもある
- ☐ 湯船につからず、シャワーだけのことが多い
- ☐ 鞆をいつも同じ側の肩にかけている
- ☐ 枕が合っていないと感じる



肩こりを解消・予防するには？

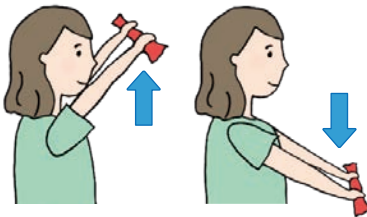
長時間同じ姿勢をとっていた時などはストレッチ！硬くなった肩周囲を動かして、筋肉をほぐしましょう。肩こりは生活習慣を見直すと改善することがあります。毎日の生活の中に、適度な運動習慣を取り入れて、肩こりが起こりにくい身体にできると良いですね。

おすすめの体操をご紹介します。痛みのない・無理のない範囲で行ってみてください。タオルやラップの芯などを使うと行いやすいですが、何も持たなくても出来ますよ！目安はそれぞれ10～20回程度ですが、身体の調子に合わせて行って下さい。

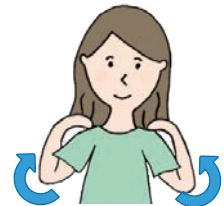


肩をギュッとすくめて

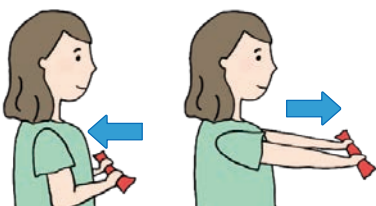
ストンとおろす



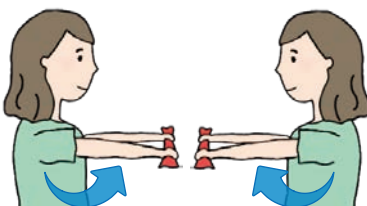
腕を上げ下げする



肩に手を置いて肘を回す



肘を曲げ伸ばしする



腕を身体の横にねじる

- ・座ってでも、立ってでも出来ます。
- ・広い場所で安全に気を付けて行って下さい。
- ・呼吸を止めずに、ゆっくり行って下さい。
- ・痛みが強い場合や、炎症がある場合は無理に行わないで下さい。

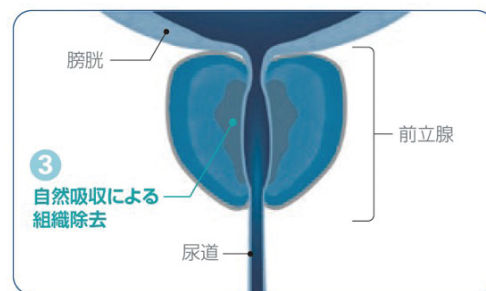
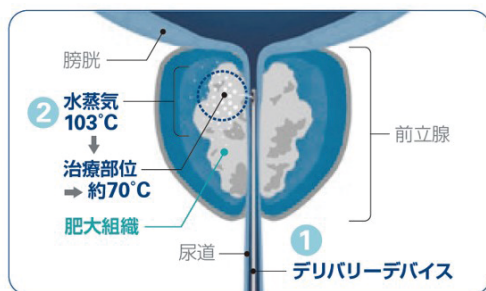
水蒸気をもたらす低侵襲前立腺肥大症治療 WAVE治療について

前立腺肥大症(BPH)とは

前立腺肥大症(以下BPH)は、加齢などによって肥大した前立腺が尿道を圧迫することにより、尿の出にくさや頻尿といった尿にかかわる様々な症状を引き起こす良性疾患です。加齢によって増加するといわれており、40～50歳代の2%、そして60～70歳代の6～12%の方がBPHの症状を持っているといわれています。

WAVE(経尿道的水蒸気治療)とは

WAVE(Water Vapor Energy)は、BPHのための治療方法で、肥大した部分に水蒸気を注入し、水蒸気の熱を利用して前立腺を退縮させる低侵襲な治療方法です。日本では行政の承認を2021年に取得した新しい治療法(2022年9月保険適用)ですが、欧米では10年近い実績があり、治療の効果が保たれている事が示されている治療法です。



前立腺内に送り込まれる水蒸気は103℃ですが、体温で冷やされ水に戻ります。この時、発せられる熱エネルギーが肥大組織に影響し、細胞を壊します。壊死した細胞が1～3カ月をかけて自然に体内に吸収されることで、BPHの症状を和らげます。

効果は患者さんによって異なりますが、術後数週間～1カ月後から始まります。

適 応

身体への負担が比較的少なく低侵襲であることから、以下のような患者さんが検討されます。

- ・全身状態不良のため**合併症リスクが高い症例**
- ・高齢もしくは認知機能障害のため**術後せん妄、身体機能低下リスクが高い症例**

治療の流れ

外来受診

手術適応等
検討

入院



手 術

全身麻酔
30分程度

4～7日



尿 道
カテーテル
抜 去

退院



外来受診

術後
チェック

当院の取り組み

当院ではBPHにおいて手術療法が適用される患者さんのうち、全身状態や手術侵襲を考慮して、治療法を選択いたします。今回導入したWAVE治療は、

- ・従来の手術療法(経尿道的前立腺手術等)が困難な症例
- ・お薬の副作用で悩んでいた方
- ・長い手術時間に適さない方

にも新たな選択肢となるものです。※全てのBPHに適用となる治療ではありません。

体に優しい治療法ですので、BPHでお悩みの方は担当医までご相談ください。



お問い合わせ先

泌尿器科外来

TEL:076-252-2101(代表)

※WAVE治療は7頁でご紹介の「かみむらクリニック」でも受けることができます。

連携登録医のご紹介

今回は、金沢市南新保町の

『かみむらクリニック』をご紹介します

いたします。

かみむらクリニック院長の上村吉穂です。

当クリニックは2023年3月に金沢市南新保町で開業しました。院長は泌尿器科と内科を、副院長は形成外科と美容外科を担当しています。

地元金沢で、より患者さんに近い立場で専門性の高い医療を提供したいという思いが強くなり、開業を決心しました。専門性の高い治療だけでなく、風邪、怪我、生活習慣病など幅広い疾患にも対応しており、小さなお子様からご年配の方まで、様々な年代の患者さんが来院されています。内服治療だけでなく、最新の医療機器を導入した手術室を利用した日帰り手術も行っています。

最後になりますが、当クリニックの理念は、患者さん本人だけでなく、患者さんのご家族、そして当クリニックに関わる全ての方が心穏やかな日々を通して豊かな人生を送る一助になることです。

今後ともよろしくお願いいたします。



クリニック外観



かみむら よしほ
院長 上村 吉穂 先生

かみむらクリニック

診療科：泌尿器科、内科、形成外科、美容外科

専門医資格：日本泌尿器科学会専門医・指導医

日本がん治療認定医機構認定医

日本内視鏡外科学会腹腔鏡技術認定医

泌尿器腹腔鏡技術認定医

da Vinci certificate ドクター

ボトックス施行医(膀胱)

緩和ケア研修終了医

略歴：金沢大学医学部卒

神戸市立医療センター中央市民病院(初期研修医)

市立砺波総合病院

高岡市民病院

公立松任石川中央病院

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	/	○	○	/
14:00~18:00	○	○	○	/	○	/	/
13:00~17:00	/	/	/	/	/	○	/

休診日：木、日、祝祭日、お盆、年末年始

住所：〒920-0064

金沢市南新保町口28-1

電話：076-239-8001

駐車場：あり

アクセス：北鉄バス「三浦住宅前」バス停下車徒歩5分



連携登録医とは

地域の医療機関と浅ノ川総合病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の提携を目指して開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。

データで見る 浅ノ川総合病院

令和4年度、当院を受診した患者さんの数や、診療行為の実績、診療した疾患の上位などを掲載いたします。

・1日平均外来患者数・

535.7人

1日あたり外来を受診した患者さんの数です

・1日平均入院患者数・

422.2人

1日あたり入院された患者さんの数です

・救急車搬入数(年間)・

1,879件
(1日あたり5.1件)

救急車で搬入された患者さんの数です

・紹介患者数(年間)・

6,188人
(1日あたり17.0人)

他の医療機関から紹介された患者さんの数です

・逆紹介患者数(年間)・

3,900人
(1日あたり10.7人)

他の医療機関に紹介した患者さんの数です

・手術件数(年間)・

4,924件
(1日あたり13.5件)

入院手術と外来手術を合わせた件数です

・放射線治療患者数(年間)・

403人

ガンマナイフ・ノバルスによる放射線治療を行った患者さんの数です

・透析患者数・

169人

当院で透析を行なっている患者さんの数です

・診療科別主要手術・

診療科ごとに件数の多かった手術を表示します

- 眼科** …… 白内障手術／硝子体茎離断術
増殖性硝子体網膜症手術
- 内科** …… 内視鏡的大腸ポリープ切除術
内視鏡的胆道ステント留置術
- 外科** …… 内視鏡的大腸ポリープ切除術
腹腔鏡下そけいヘルニア手術
- 泌尿器科** …… 経尿道的尿管ステント留置術
- 整形外科** …… 経皮的椎体形成術
骨折観血的手術(大腿)

・疾患別患者数ランキング・

当院を退院した患者さんの数が多い順に並べています

- 1位** …… 白内障
- 2位** …… 脳腫瘍
- 3位** …… その他の感染症(COVID19を含む)
- 4位** …… 大腸ポリープ
- 5位** …… 脳梗塞
- 6位** …… 誤嚥性肺炎
- 7位** …… 結腸の悪性腫瘍
- 8位** …… 腎臓・尿路の感染症
- 9位** …… てんかん
- 10位** …… 肺炎等



地域の方々に当院についてさらに深く知っていただきたいという意味をこめて、臨床指標や現場スタッフの声をホームページ上で公開しています。ぜひご覧ください。

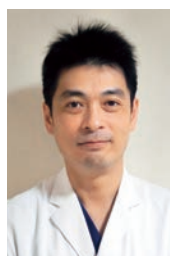
新任医師紹介



内科 **とが ひろひさ**
梅 博久

内科疾患全般を診ますが、主に肺の病気を診ます。肺がん、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(タバコ肺、COPD)、間質性肺疾患、睡眠呼吸障害(SAS)など疑われる方は受診してください。

専門分野／呼吸器科



眼科 **もり かずや**
森 和也

視力は健康な生活を送るうえで欠かせない大切なものです。皆様が少しでも健やかに過ごせるよう、一助となれるよう頑張ります。

専門分野／眼科

お盆休みのお知らせ

令和5年8月15日(火)・16日(水)はお盆休みにつき外来診療を休診いたします。(救急の場合は救急外来で対応します)

お問い合わせ先

広報誌に関する質問・投稿・ご意見などは広報室へお願いいたします。
TEL:076-252-2101(代) URL:<https://www.asanogawa-gh.or.jp/>
メールアドレス:kouhou-1204@asanogawa-gh.or.jp

